



目次

変更年月日	変更内容
2017-08-01	初版
2017-12-01	第2版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 「設定ファイル」にPDF帳票サーバを使用する場合の設定項目を追加しました。■ 「WAR ファイルのデプロイ」を追加しました。
2018-12-01	第3版 下記に対応しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 表記のゆれを訂正しました。

本書の目的

本書では IM-PDF Designer for Accel Platform IM-LogicDesigner連携（以下 IM-LogicDesigner連携）の機能概要と操作方法について説明します。

対象読者

次の利用者を対象としています。

- IM-LogicDesigner連携 のセットアップを行う方
- IM-LogicDesigner連携 を利用してPDF帳票の出力処理を作成する方

なお、本機能の利用するためには、IM-LogicDesigner の機能や仕組みを理解している必要があります。詳細についてはIM-LogicDesigner のドキュメントを参照してください。

本書の構成

- [IM-LogicDesigner連携 について](#)
IM-LogicDesigner連携 の概要について説明します。
- [IM-LogicDesigner連携 のセットアップ方法](#)
IM-LogicDesigner連携 のセットアップ方法について説明します。
- [単票形式のPDF帳票を出力する方法](#)
単票形式のPDF帳票を出力する方法について説明します。
- [表形式のPDF帳票を出力する方法](#)
表形式のPDF帳票を出力する方法について説明します。
- [付録](#)
IM-LogicDesigner連携 が提供するユーザ定義タスクの仕様や、トラブルシューティングについて説明します。

- IM-LogicDesigner連携 とは
- IOWebDOC (iod)定義 とは
- IOWebDOC (ddl)定義 とは

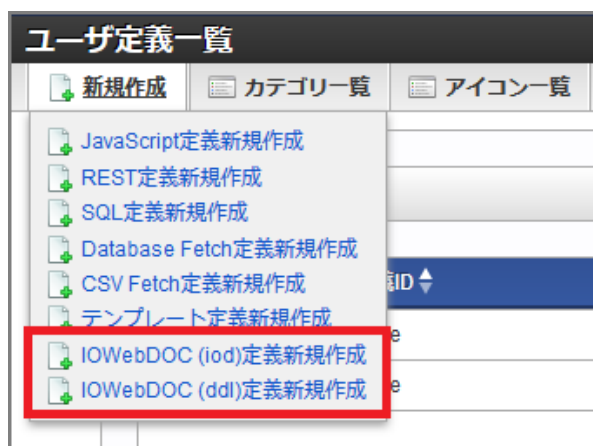
IM-LogicDesigner連携 とは

IM-LogicDesigner連携 とは、PDF帳票の出力処理を簡単に作成できるアプリケーションです。IM-LogicDesigner連携 の主な特徴は以下の通りです。

- プログラミングの知識がなくても、GUI上で簡単にPDF帳票の出力処理を作成できます。
- IM-LogicDesigner のユーザ定義タスクとして提供されるため、様々なアプリケーションから呼び出すことができます。
- 単票形式と表形式のPDF帳票を出力できます。
- PDFに文書情報やセキュリティを付与できます。

IM-LogicDesigner連携 を導入することで、IM-LogicDesigner のタイプ別新規作成リンクに次の項目が追加されます。

- IOWebDOC (iod)定義新規作成
- IOWebDOC (ddl)定義新規作成



IOWebDOC (iod)定義 とは

IOWebDOC (iod)定義 とは、単票形式のPDF帳票を出力するユーザ定義タスクです。

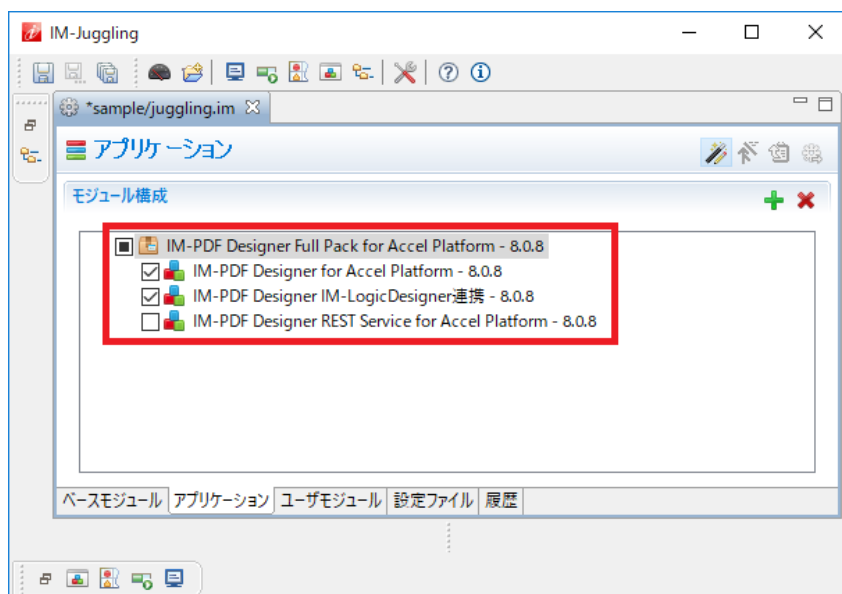
IOWebDOC (ddl)定義 とは

IOWebDOC (ddl)定義 とは、表形式のPDF帳票を出力するユーザ定義タスクです。

セットアップの全体的な流れについては「[IM-PDF Designer セットアップガイド](#)」を参照してください。セットアップの流れの中で IM-LogicDesigner連携 に必要な作業は以下の通りです。

モジュールの選択

IM-LogicDesigner連携 のモジュールは IM-PDF Designer Full Pack for Accel Platform に含まれています。IM-Juggling の「アプリケーション」タブで「IM-PDF Designer for Accel Platform IM-LogicDesigner連携」を選択してください。



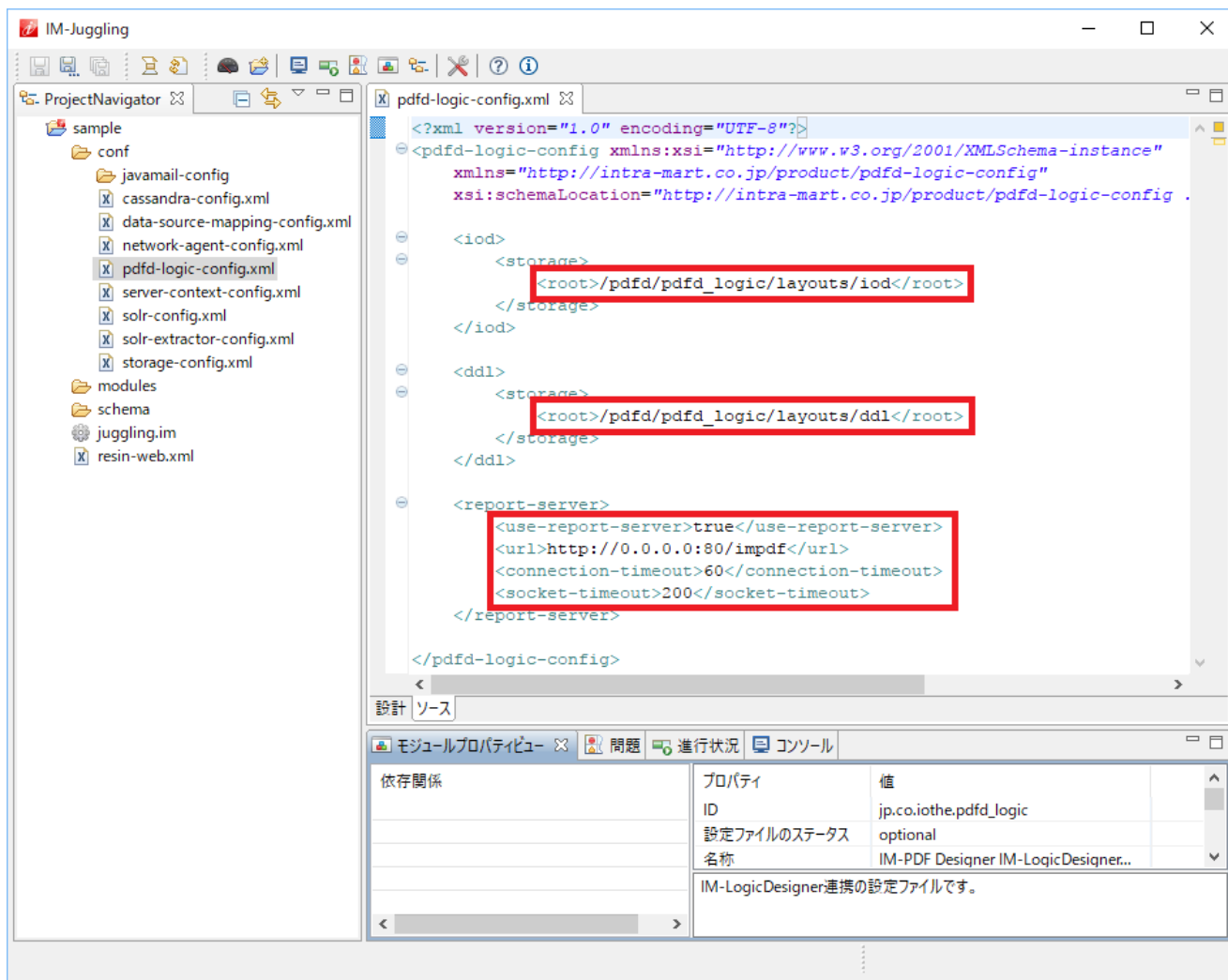
設定ファイル

- [pdfd-logic-config.xml](#)
 - `<iod>/<storage>/<root>`
 - `<ddl>/<storage>/<root>`
 - `<report-server>`
 - `<report-server>/<use-report-server>`
 - `<report-server>/<url>`
 - `<report-server>/<connection-timeout>`
 - `<report-server>/<socket-timeout>`

pdfd-logic-config.xml

IM-LogicDesigner連携 の設定ファイル（`pdfd-logic-config.xml`）を必要に応じて編集します。

1. IM-Juggling の「ProjectNavigator」内の `<(プロジェクト名)/conf/pdfd-logic-config.xml>` ファイルをダブルクリックで開き、「ソース」タブを選択します。
2. 必要に応じて値を変更します。



<iod>/<storage>/<root>

単票形式のレイアウトファイルの保存先を表します。

- パブリックストレージのパスを指定してください。
- 初期値は `/pdfd/pdfd_logic/layouts/iod` です。

<ddl>/<storage>/<root>

表形式のレイアウトファイルの保存先を表します。

- パブリックストレージのパスを指定してください。
- 初期値は `/pdfd/pdfd_logic/layouts/ddl` です。

<report-server>

PDF帳票サーバに関する設定を表します。

- 省略時はPDF帳票サーバを使用しません。

<report-server>/<use-report-server>

PDF帳票サーバを使用するかどうかを表します。

- スタンドアロン構成の場合は `false` を指定してください。
- 分散構成の場合は `true` を指定してください。

- 初期値は false です。

<report-server>/<url>

PDF帳票サーバのアプリケーションのURLを表します。

- <report-server>/<use-report-server> が true の場合は必須です。
- 初期値は http://0.0.0.0:80/impdf です。

<report-server>/<connection-timeout>

PDF帳票サーバのアプリケーションへの接続が確立されるまでの待機時間を表します。

- 単位は 秒 です。
- <report-server>/<use-report-server> が true の場合は必須です。
- 初期値、デフォルト値は 60 です。

<report-server>/<socket-timeout>

PDF帳票サーバのアプリケーション接続後の待機時間を表します。

- 単位は 秒 です。
- <report-server>/<use-report-server> が true の場合は必須です。
- 初期値、デフォルト値は 200 です。



コラム

スタンドアロン構成や分散構成の詳細については「IM-PDF Designer セットアップガイド」を参照してください。

WARファイルのデプロイ

分散構成の場合、PDF帳票サーバにWARファイルをデプロイする必要があります。詳細については「IM-PDF Designer セットアップガイド」を参照してください。



コラム

スタンドアロン構成の場合、WARファイルのデプロイは不要です。



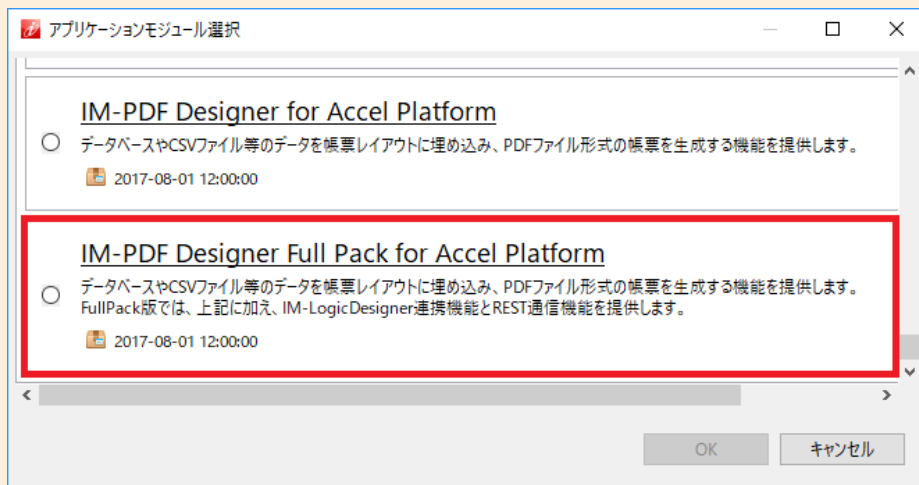
注意

IM-LogicDesigner連携 は以下のバージョンでご利用いただけます。古いバージョンでは使用できません。

- intra-mart Accel Platform 2016 Winter(Olga) 以上
- IM-PDF Designer Full Pack for Accel Platform 8.0.8 以上

! 注意

IM-PDF Designer for Accel Platform は 標準版 と FullPack版 が存在します。IM-LogicDesigner連携 を使用する場合は、FullPack版 の「IM-PDF Designer Full Pack for Accel Platform」を選択してください。標準版 と FullPack版 は二つ同時に選択しないでください。



- レイアウトファイルを作成する
- IOWebDOC (iod)定義 を作成する
 - 新規登録画面を表示する
 - 定義内容を編集する
- ロジックフローを作成する
 - 出力ファイルをマッピングする
 - 文書情報をマッピングする
 - セキュリティ情報をマッピングする
 - 帳票データをマッピングする

レイアウトファイルを作成する

レイアウトデザインツール「IODOC」を利用してレイアウトファイル (.iod) を作成します。



コラム

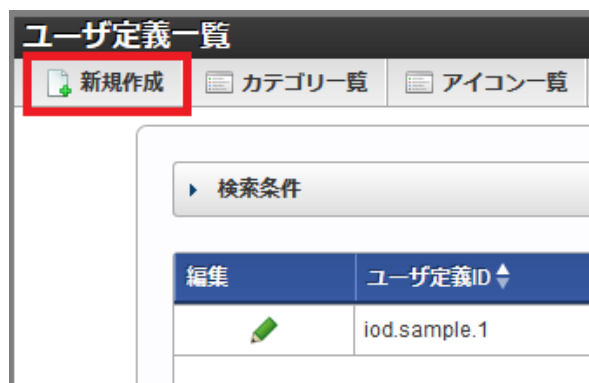
IODOCの詳細については「IM-PDF Designer プログラミングガイド」を参照してください。

IOWebDOC (iod)定義 を作成する

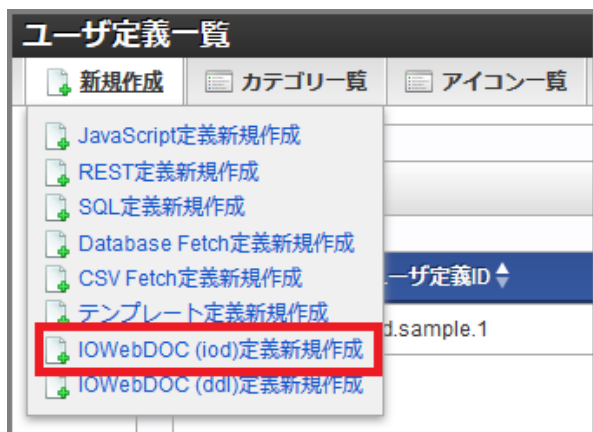
新規登録画面を表示する

以下の手順で「IOWebDOC (iod)定義編集」画面を表示します。

1. 「サイトマップ」→「LogicDesigner」→「ユーザ定義」→「ユーザ定義一覧」をクリックします。「ユーザ定義一覧」画面が表示されます。
2. ツールバーの「新規作成」をクリックします。作成可能なユーザ定義の一覧が表示されます。



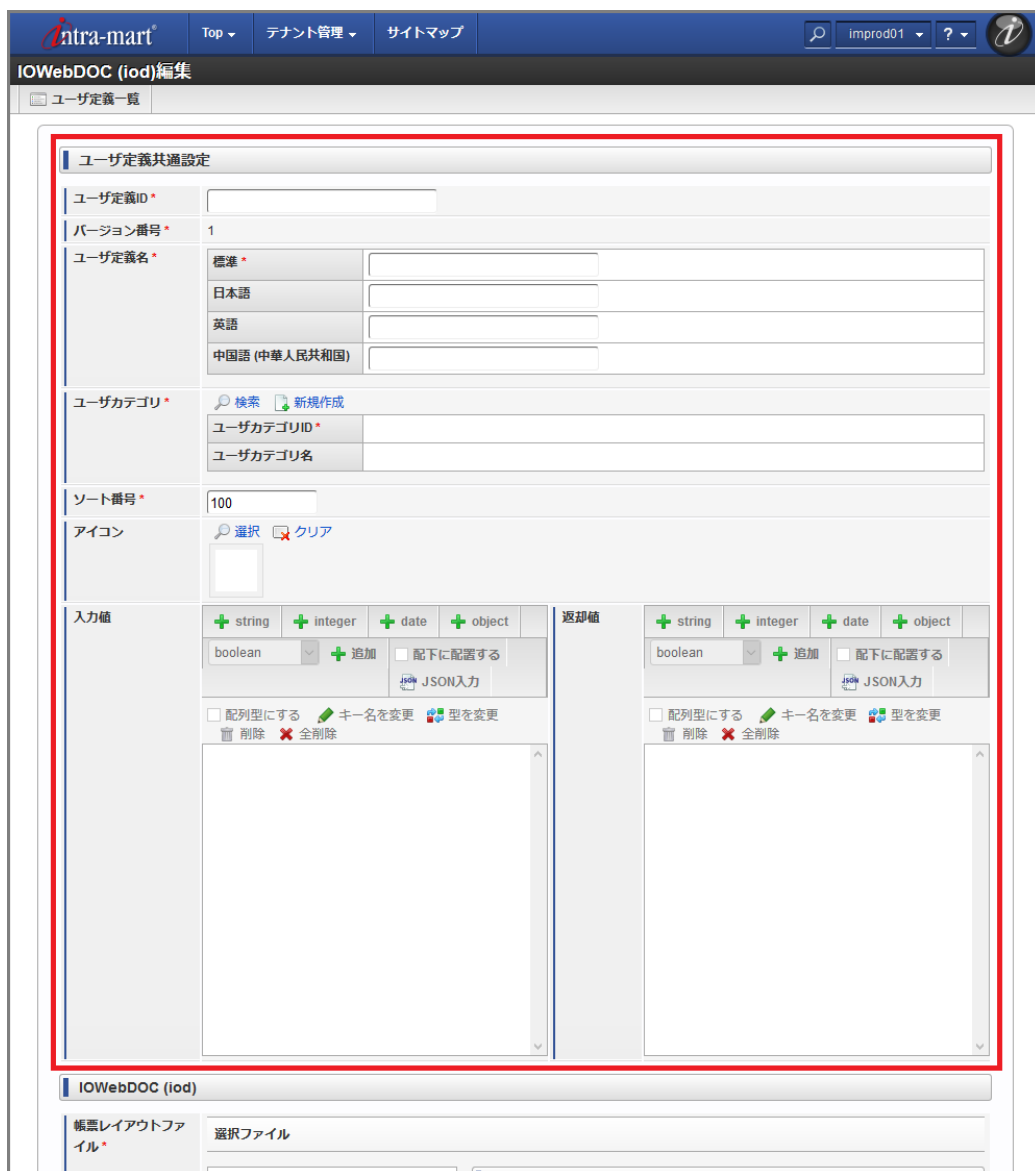
3. 「IOWebDOC (iod)定義新規作成」をクリックします。「IOWebDOC (iod)定義編集」画面が表示されます。



定義内容を編集する

以下の手順で定義内容を編集して、ユーザー定義を登録します。

1. ユーザー定義共通設定を入力します。



コラム

ユーザー定義共通設定の詳細については IM-LogicDesigner のドキュメントを参照してください。

**コラム**

入力値と返却値は入力できません。レイアウトファイル選択時に自動生成されます。

- レイアウトファイル (.iod) をパブリックストレージにアップロードします。ファイルツリー上でディレクトリを選択して、「アップロード」ボタンをクリックします。

**コラム**

ファイルツリーには、`pdfd-logic-config.xml` の `<iod>/<storage>/<root>` で指定したパブリックストレージが表示されます。表示されるファイルの種類は .iod (単票形式のレイアウトファイル) のみです。

**コラム**

ファイルのアップロード以外にも、以下の操作が可能です。

- ディレクトリの作成
- ディレクトリまたはファイルの削除
- ファイルのダウンロード

- ファイルツリー上で対象のレイアウトファイルをクリックします。
- 「選択」ボタンをクリックします。入力値と返却値が自動生成されます。

The screenshot displays the configuration interface for IOWebDOC (iod). It is divided into several sections:

- 入力値 (Input Values):** Contains a list of data types (string, integer, date, object) and a 'boolean' dropdown. Below this is a tree view of properties:
 - outputFile <storage>
 - docInfo <object>
 - title <string>
 - subTitle <string>
 - author <string>
 - application <string>
 - security <object>
 - openPassword <string>
 - securityPassword <string>
 - allowPrint <boolean>
 - allowEdit <boolean>
 - allowCopy <boolean>
 - allowAnnotate <boolean>
 - reportData <object>
 - hatchusha <string>
- 返却値 (Return Values):** Mirrors the input values section with a tree view containing only 'outputFile <storage>'.
- IOWebDOC (iod):** Shows the selected file '/nohinsho.iod'. A file browser on the left shows the file structure. A '詳細' (Details) section contains a table:

パス	/nohinsho.iod
容量	8080
最終更新日時	2017/05/30 16:47:50

 Below the table are buttons for 'ダウンロード', '選択' (highlighted with a red box), and '削除'.



コラム

入力値と返却値の詳細については *IOWebDOC (iod) 定義* を参照してください。

5. 「登録」 ボタンをクリックします。

ロジックフローを作成する

ロジックフロー定義編集画面を開き、作成した IOWebDOC (iod) 定義 を配置してください。本書では IOWebDOC (iod) 定義 の入力値のマッピング設定について説明します。



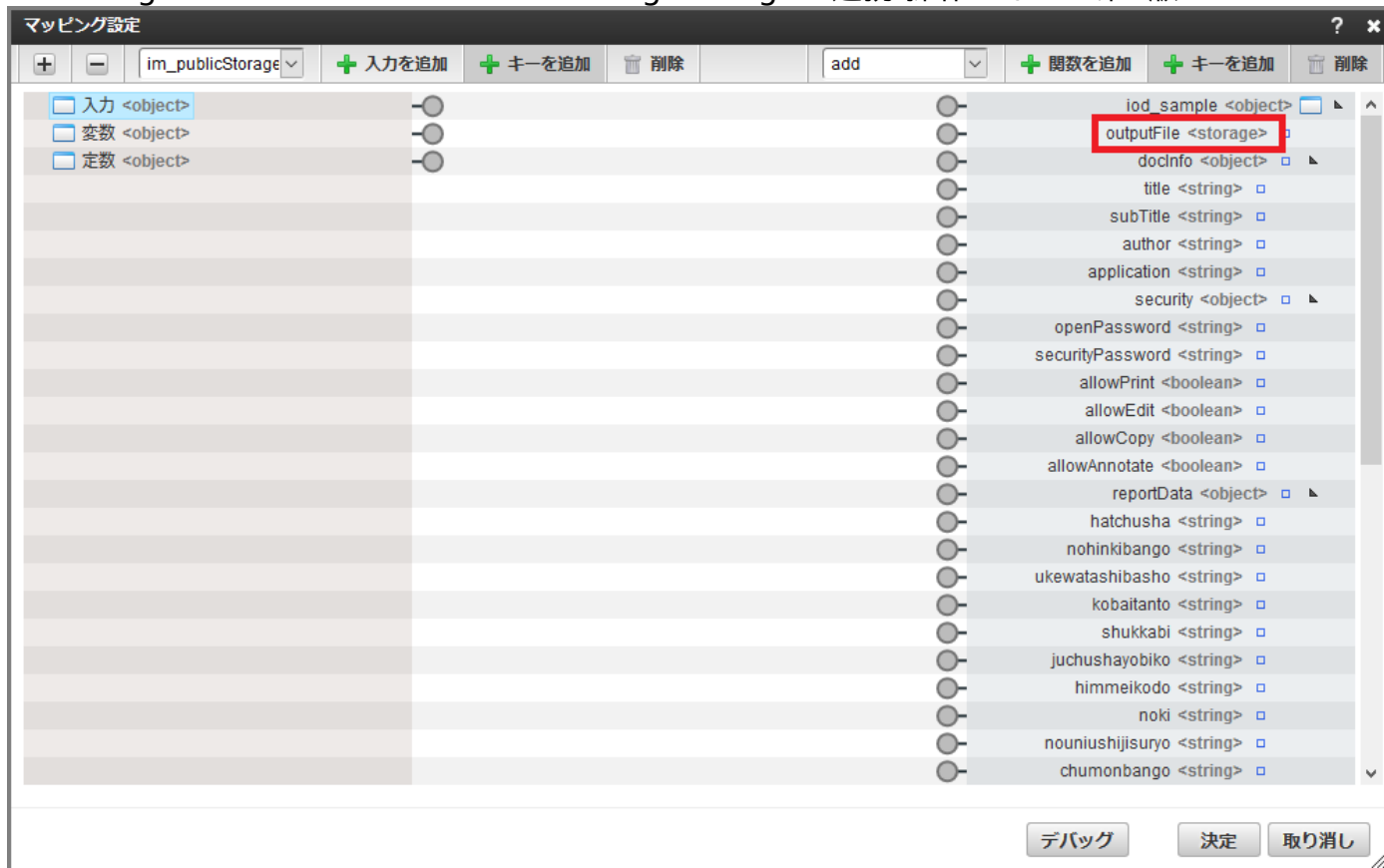
コラム

ロジックフロー定義の詳細については IM-LogicDesigner のドキュメントを参照してください。

出力ファイルをマッピングする

出力ファイルを表す入力値「outputFile」をマッピングします。

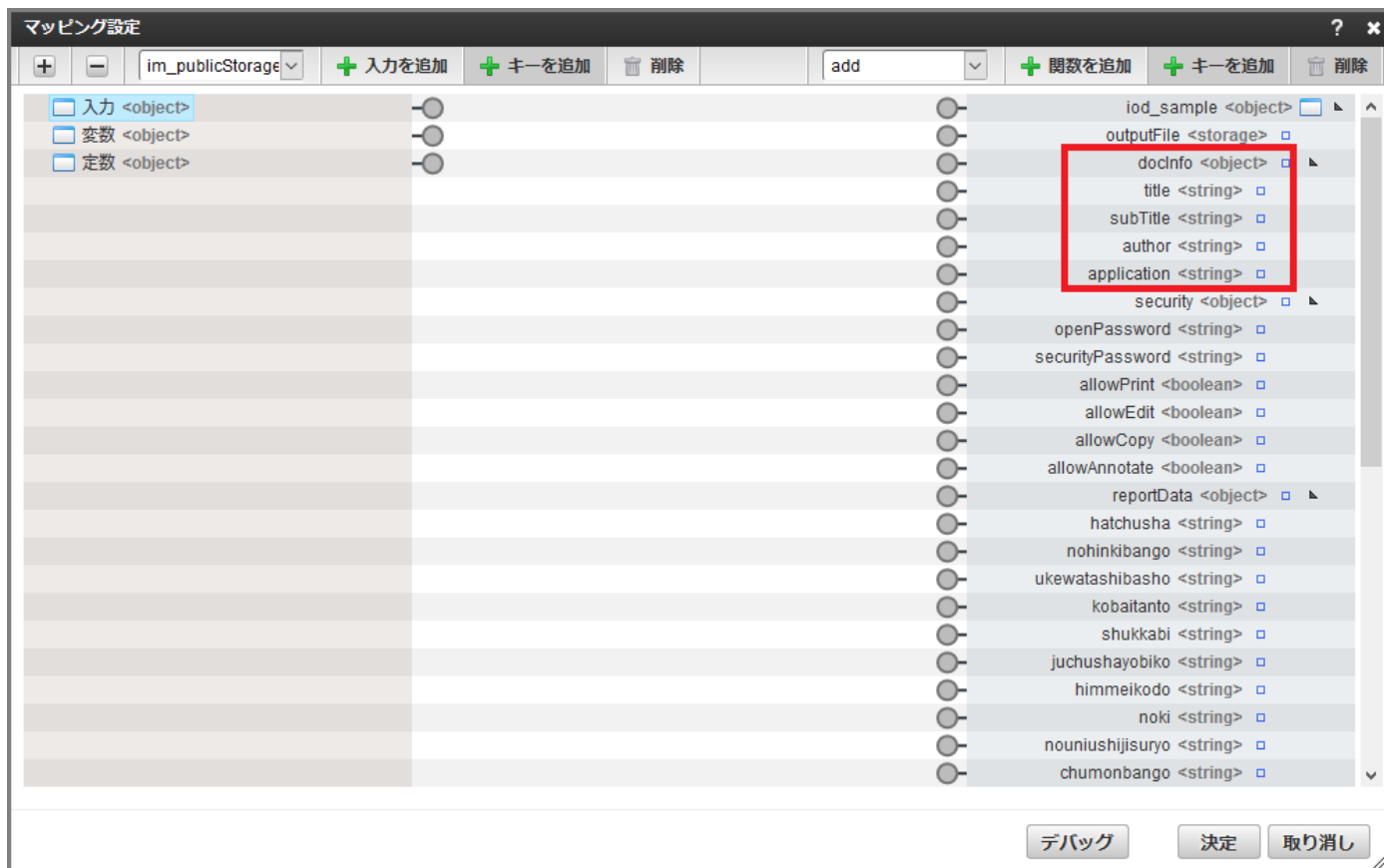
「outputFile」は必須のプロパティです。必ずマッピングしてください。



文書情報をマッピングする

PDFの文書情報を表す入力値「docInfo」をマッピングします。

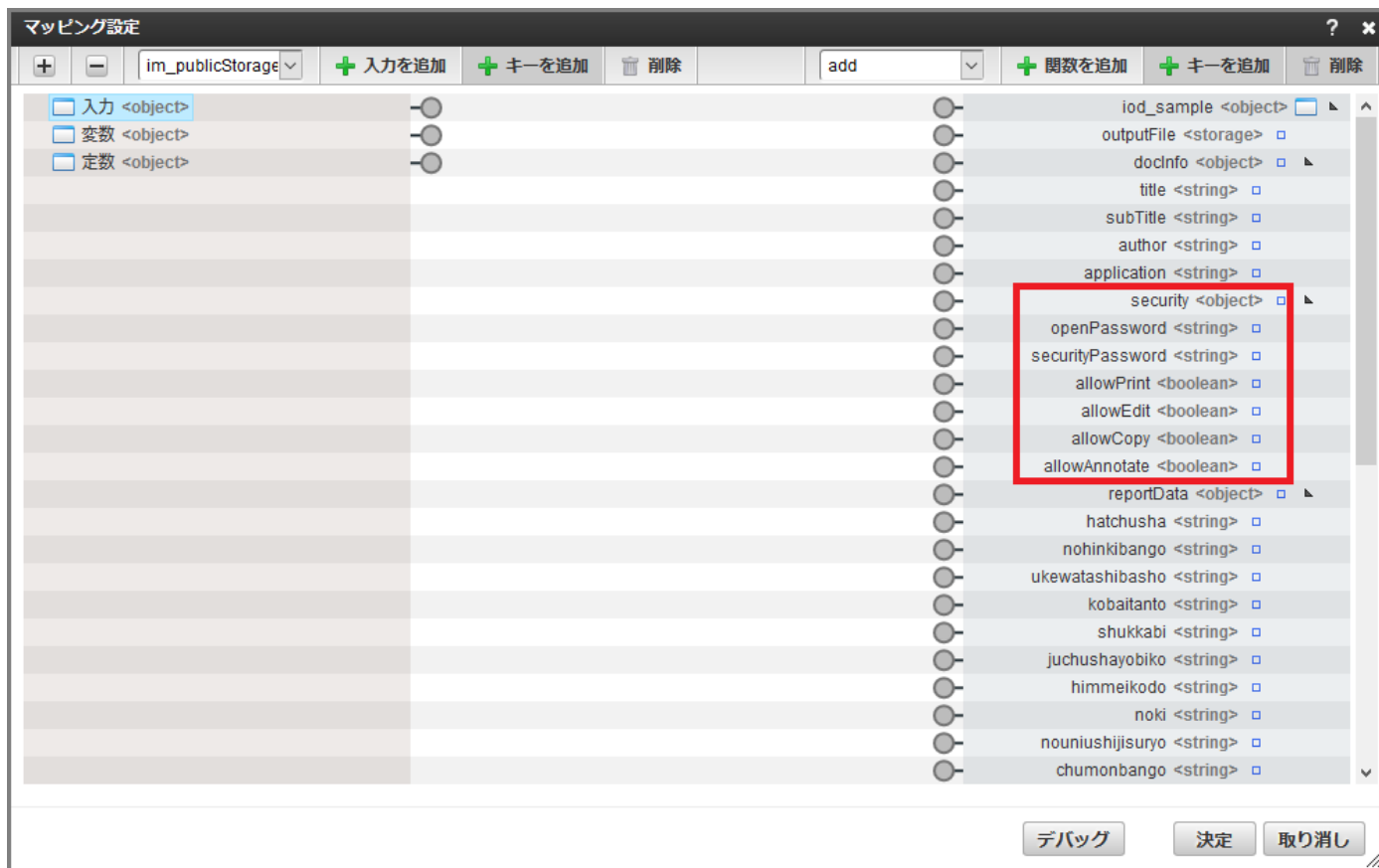
「docInfo」は任意のプロパティです。マッピングしない場合、出力されるPDFの文書情報は全て空になります。



セキュリティ情報をマッピングする

PDFのセキュリティを表す入力値「security」をマッピングします。

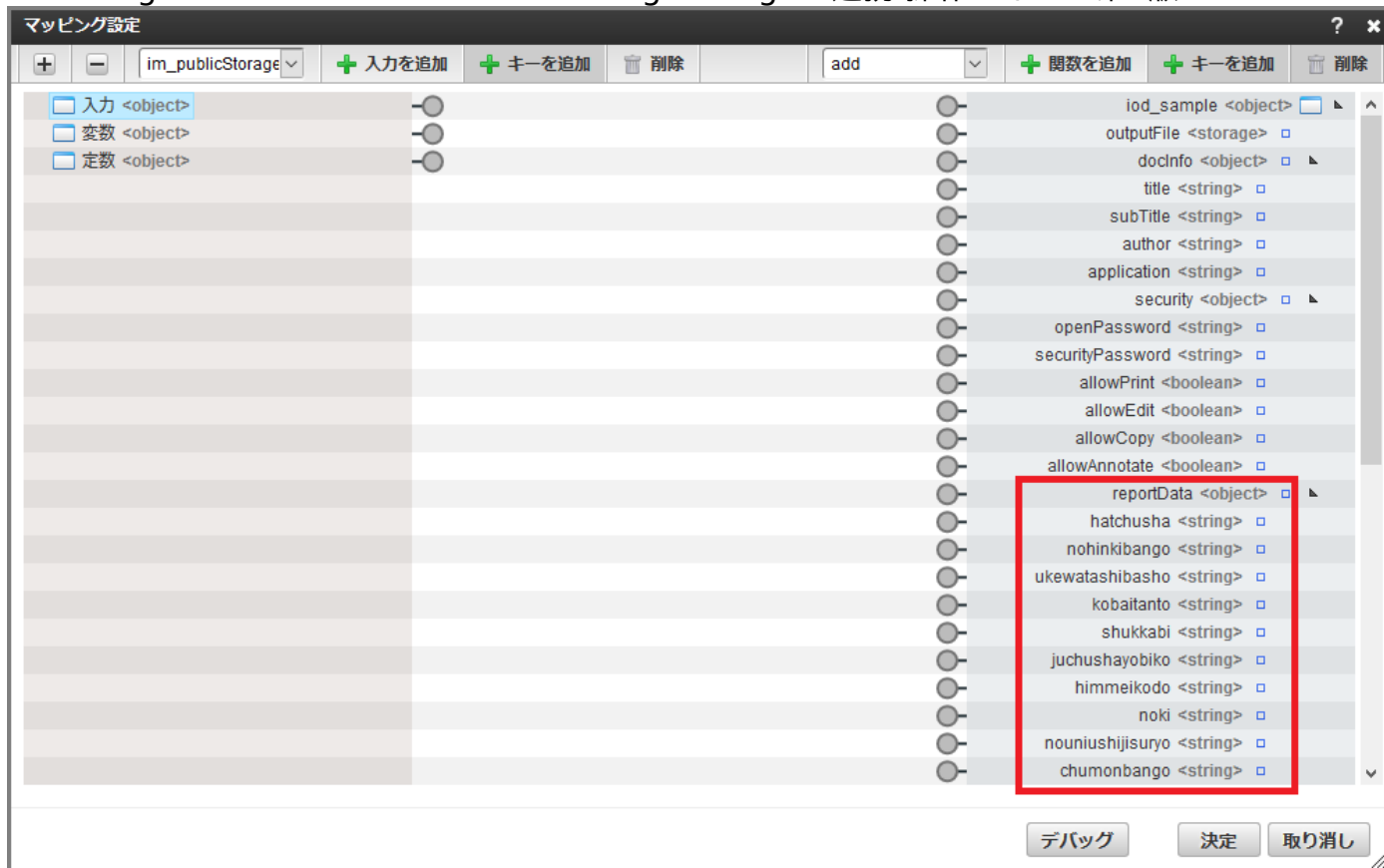
「security」は任意のプロパティです。マッピングしない場合、出力されるPDFにセキュリティは付与されません。また、文書を開くパスワード「openPassword」とセキュリティパスワード「securityPassword」が空の場合も、セキュリティは付与されません。



帳票データをマッピングする

帳票データを表す入力値「reportData」をマッピングします。

「reportData」は任意のプロパティです。マッピングしない場合、対象の帳票項目には何も出力されません。



- レイアウトファイルを作成する
- IOWebDOC (ddl)定義 を作成する
 - 新規登録画面を表示する
 - 定義内容を編集する
- ロジックフローを作成する
 - 出力ファイルをマッピングする
 - 文書情報をマッピングする
 - セキュリティ情報をマッピングする
 - 帳票データをマッピングする

レイアウトファイルを作成する

レイアウトデザインツール「DBDOC」を利用してレイアウトファイル（.ddl）を作成します。



コラム

DBDOCの詳細については「IM-PDF Designer プログラミングガイド」を参照してください。

IOWebDOC (ddl)定義 を作成する

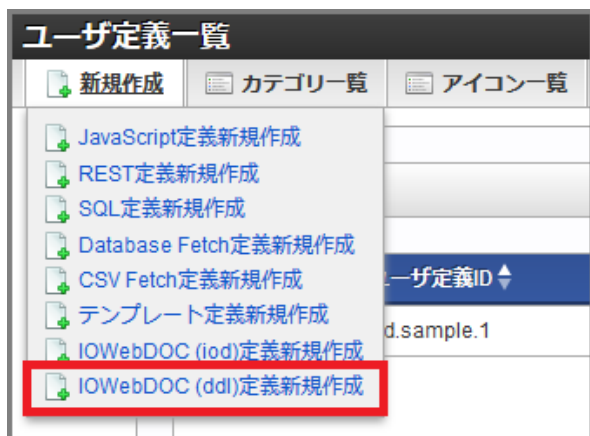
新規登録画面を表示する

以下の手順で「IOWebDOC (ddl)定義編集」画面を表示します。

1. 「サイトマップ」→「LogicDesigner」→「ユーザ定義」→「ユーザ定義一覧」をクリックします。「ユーザ定義一覧」画面が表示されます。
2. ツールバーの「新規作成」をクリックします。作成可能なユーザ定義の一覧が表示されます。



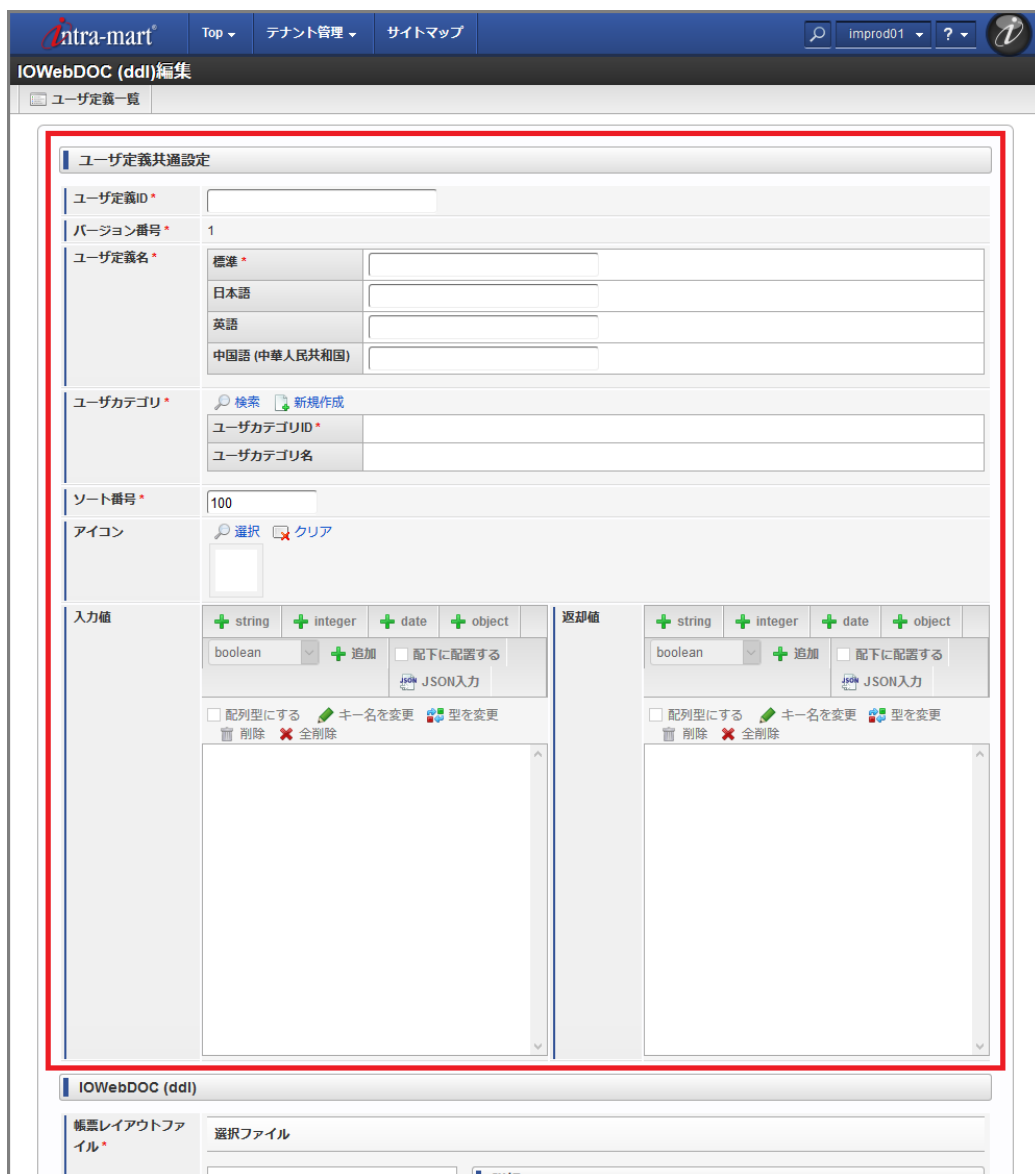
3. 「IOWebDOC (ddl)定義新規作成」をクリックします。「IOWebDOC (ddl)定義編集」画面が表示されます。



定義内容を編集する

以下の手順で定義内容を編集して、ユーザ定義を登録します。

1. ユーザ定義共通設定を入力します。



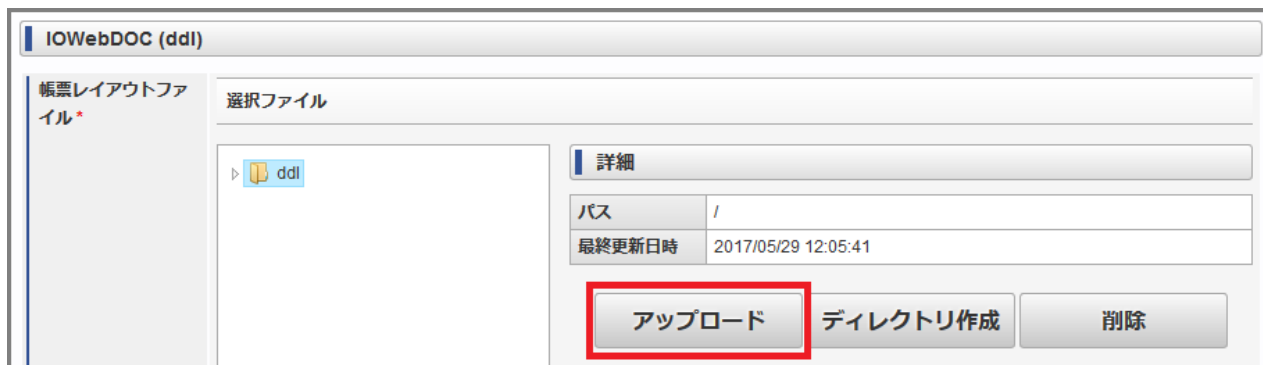
コラム

ユーザ定義共通設定の詳細については IM-LogicDesigner のドキュメントを参照してください。

**コラム**

入力値と返却値は入力できません。レイアウトファイル選択時に自動生成されます。

- レイアウトファイル (.ddl) をパブリックストレージにアップロードします。ファイルツリー上でディレクトリを選択して、「アップロード」ボタンをクリックします。

**コラム**

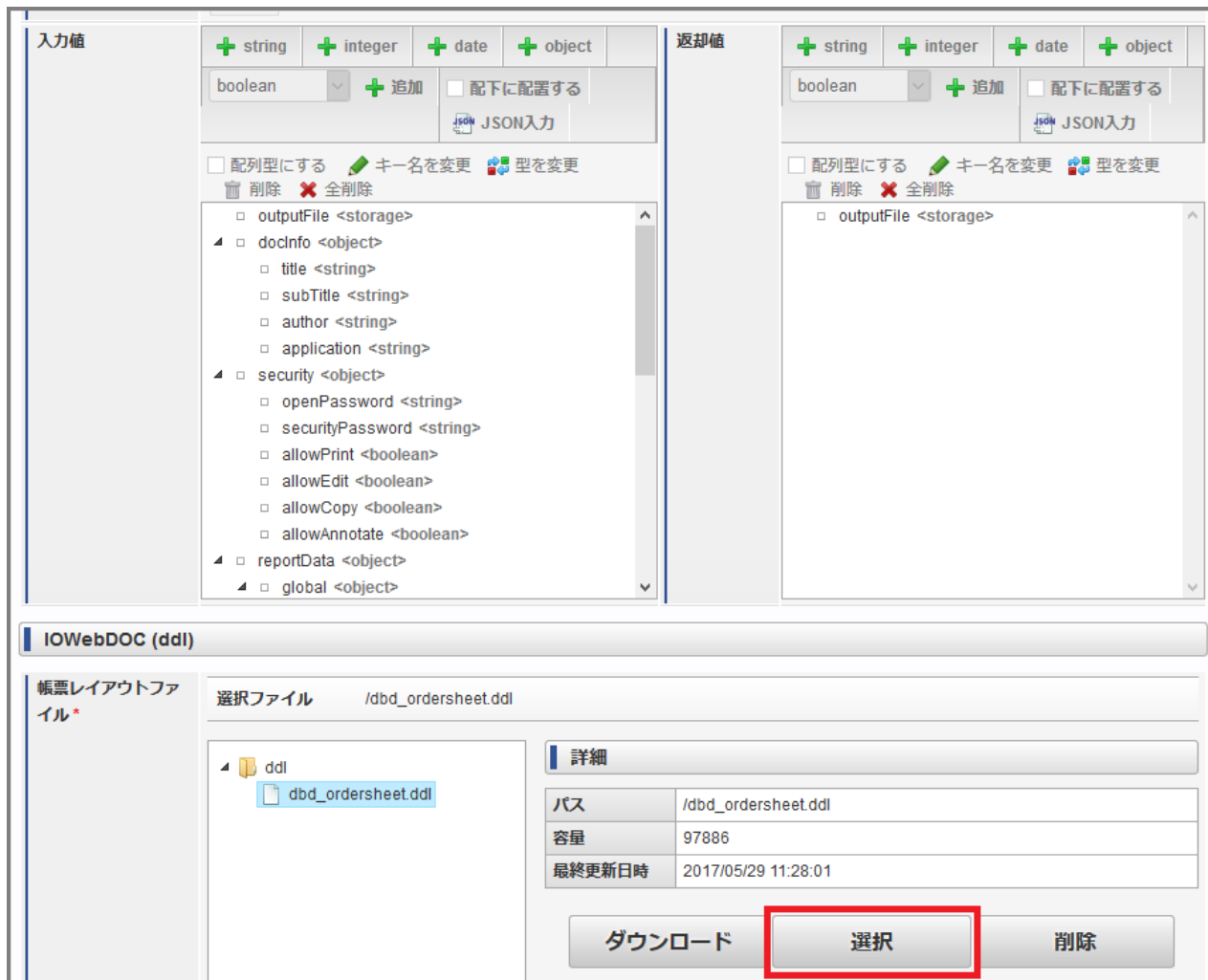
ファイルツリーには、*pdfd-logic-config.xml* の `<ddl>/<storage>/<root>` で指定したパブリックストレージが表示されます。表示されるファイルの種類は .ddl (表形式のレイアウトファイル) のみです。

**コラム**

ファイルのアップロード以外にも、以下の操作が可能です。

- ディレクトリの作成
- ディレクトリまたはファイルの削除
- ファイルのダウンロード

- ファイルツリー上で対象のレイアウトファイルをクリックします。
- 「選択」ボタンをクリックします。入力値と返却値が自動生成されます。



コラム

入力値と返却値の詳細については *IOWebDOC (ddl) 定義* を参照してください。

5. 「登録」 ボタンをクリックします。

ロジックフローを作成する

ロジックフロー定義編集画面を開き、作成した IOWebDOC (ddl) 定義 を配置してください。本書では IOWebDOC (ddl) 定義 の入力値のマッピング設定について説明します。



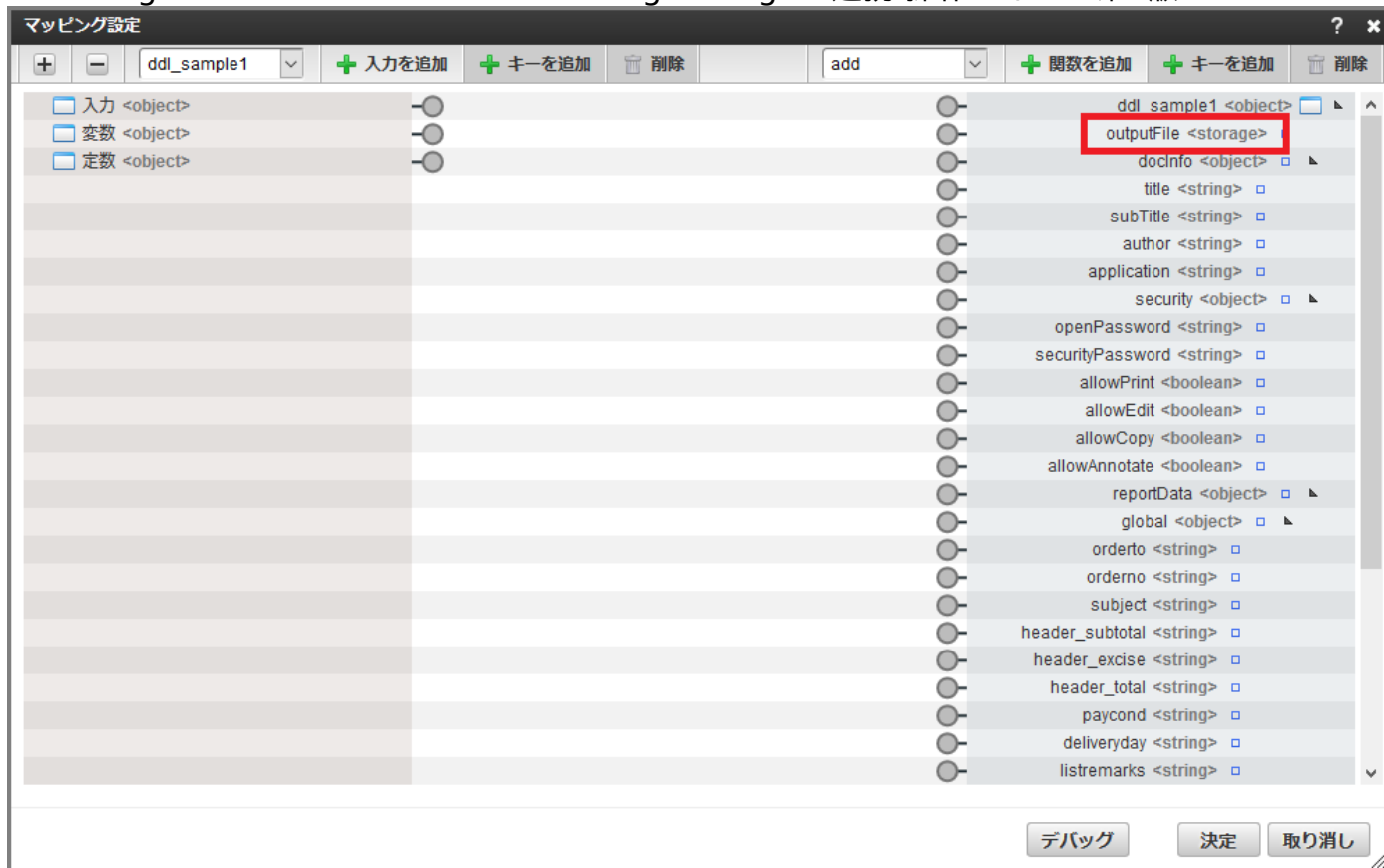
コラム

ロジックフロー定義の詳細については IM-LogicDesigner のドキュメントを参照してください。

出力ファイルをマッピングする

出力ファイルを表す入力値「outputFile」をマッピングします。

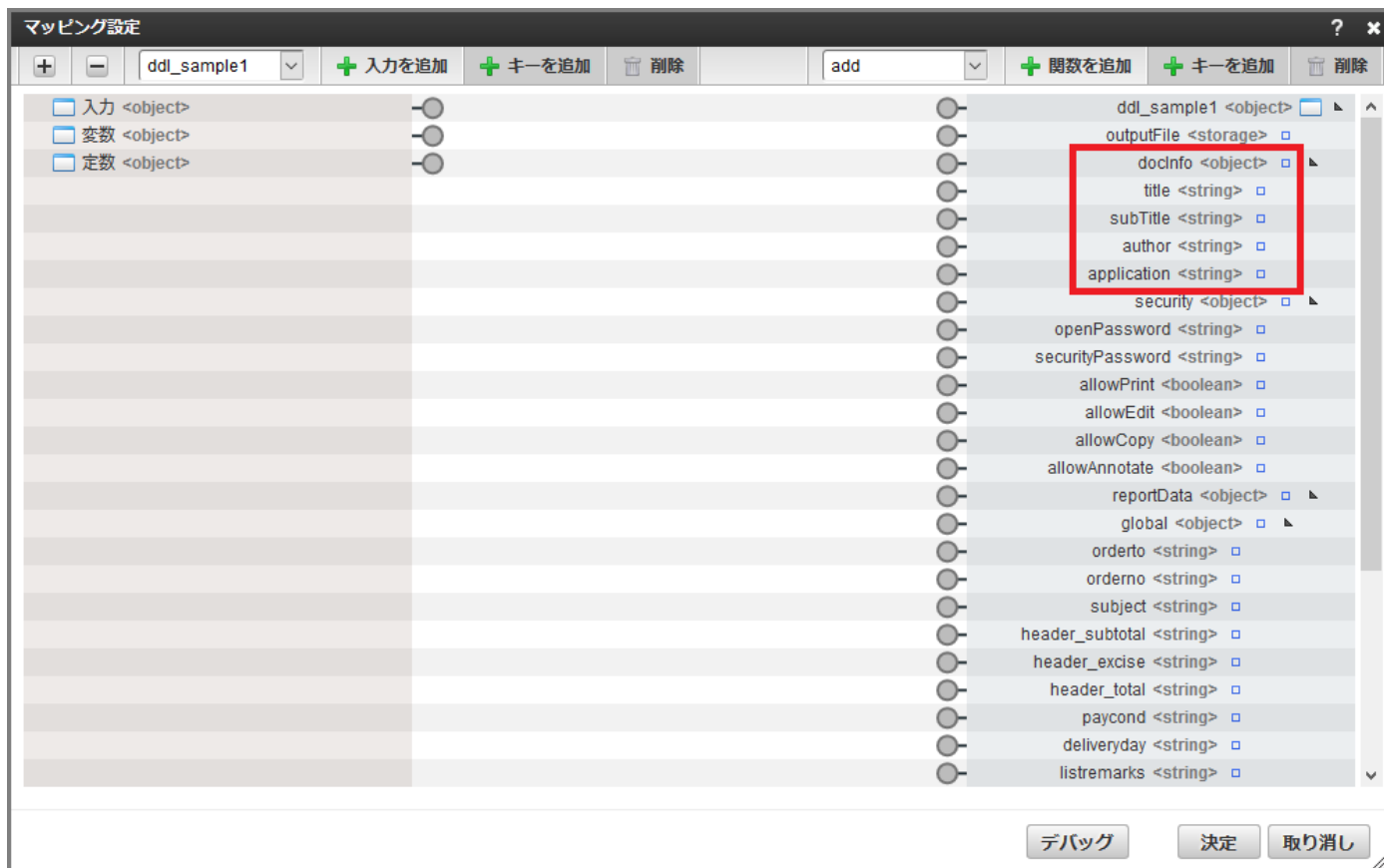
「outputFile」は必須のプロパティです。必ずマッピングしてください。



文書情報をマッピングする

PDFの文書情報を表す入力値「docInfo」をマッピングします。

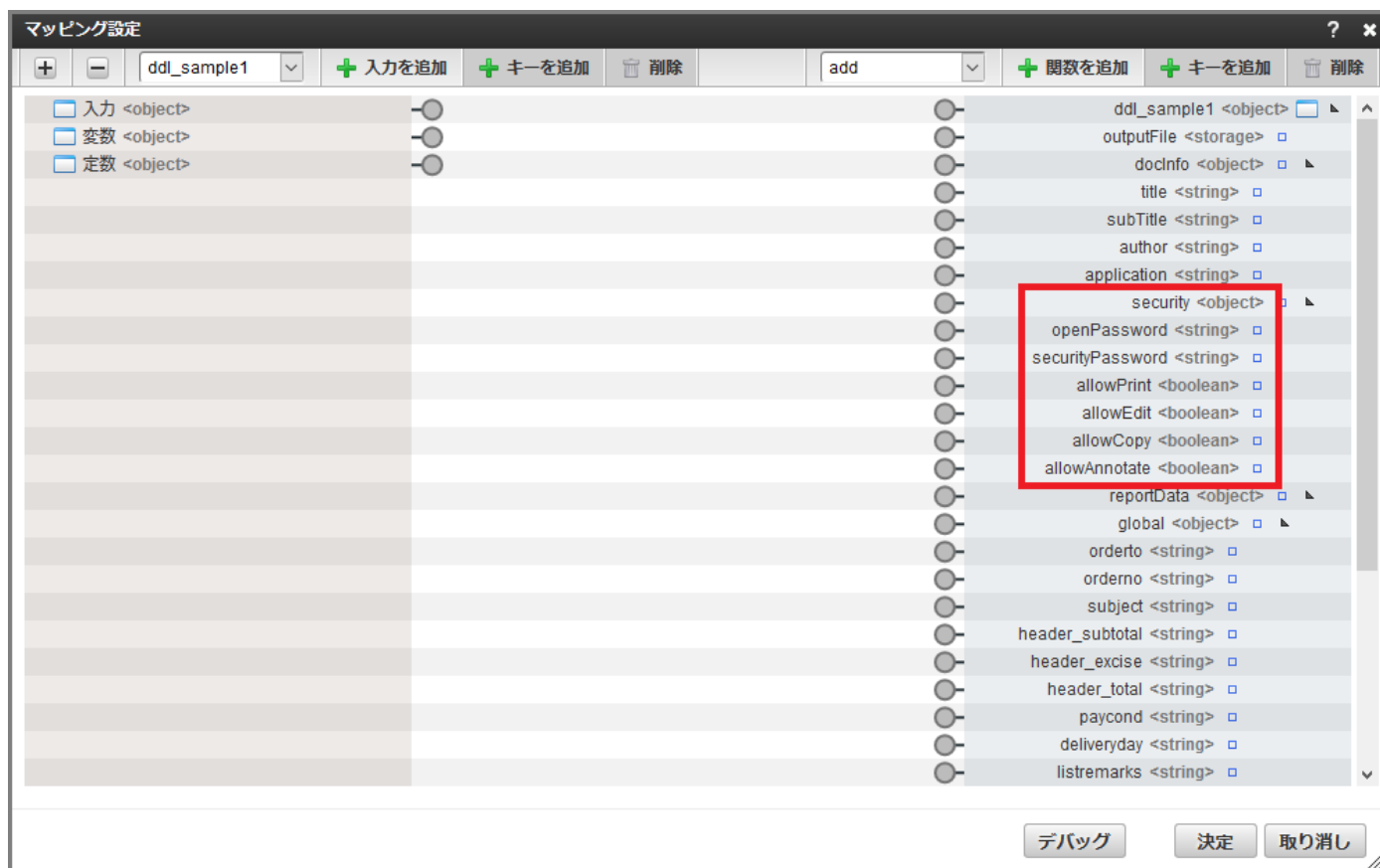
「docInfo」は任意のプロパティです。マッピングしない場合、出力されるPDFの文書情報は全て空になります。



セキュリティ情報をマッピングする

PDFのセキュリティを表す入力値「security」をマッピングします。

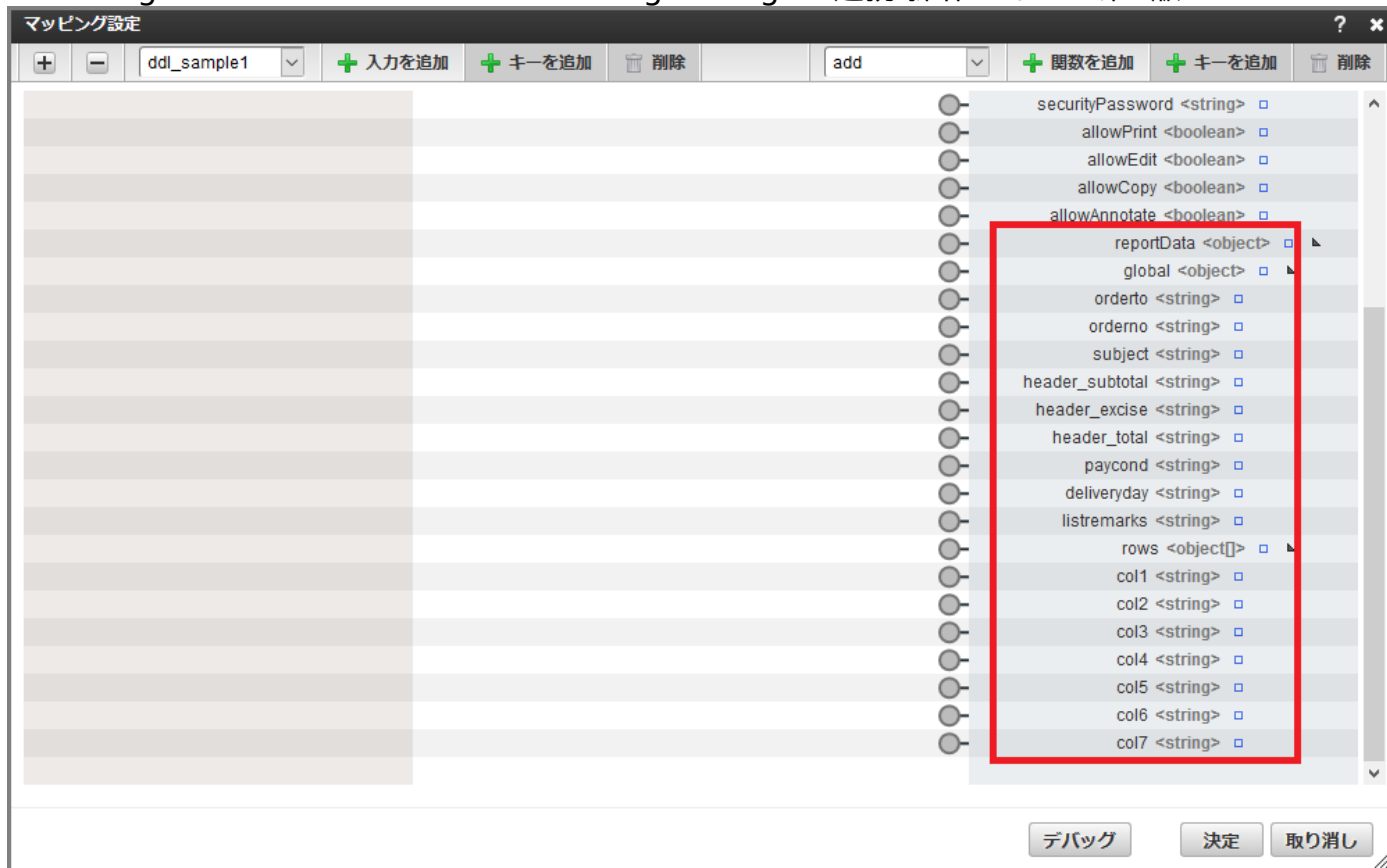
「security」は任意のプロパティです。マッピングしない場合、出力されるPDFにセキュリティは付与されません。また、文書を開くパスワード「openPassword」とセキュリティパスワード「securityPassword」が空の場合も、セキュリティは付与されません。



帳票データをマッピングする

帳票データを表す入力値「reportData」をマッピングします。

外部変数（ヘッダーやフッターなどのデータ）を表す「reportData.global」は任意、行データを表す「reportData.rows」は必須です。



注意

以下のいずれかの条件と一致する場合は、フロー実行時にエラーが発生しますので注意してください。

- 「reportData.rows」がマッピングされていない場合
 - 「reportData.rows」は必須です。
- 「reportData.rows」とマッピングされているデータが空の配列の場合
 - 1行以上のデータが必須です。
- 行のカラムデータを表すプロパティ (col1、col2...)の一部がマッピングされていない場合
 - 行のカラムデータを表すプロパティは全てマッピングする必要があります。例えば、以下のような場合、「col3」とマッピングしていないため、実行時にエラーとなります。

```
source <object[]>      reportData.rows <object[]>
value1 <string> ----> col1 <string>
value2 <string> ----> col2 <string>
                        col3 <string>
```

ユーザ定義タスク

IOWebDOC (iod)定義

単票形式のPDF帳票を出力するユーザ定義タスクです。

入力値

```
outputFile <storage> *
docInfo <object>
  └ title <string>
  └ subTitle <string>
  └ author <string>
  └ application <string>
security <object>
  └ openPassword <string>
  └ securityPassword <string>
  └ allowPrint <boolean>
  └ allowEdit <boolean>
  └ allowCopy <boolean>
  └ allowAnnotate <boolean>
reportData <object>
  └ id <string または storage>
...
```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
outputFile	必須	storage	なし	出力ファイル
docInfo	任意	object	なし	文書情報
title	任意	string	なし	タイトル
subTitle	任意	string	なし	サブタイトル
author	任意	string	なし	作成者
application	任意	string	なし	アプリケーション
security	任意	object	なし	セキュリティ
openPassword	任意	string	なし	文書を開くパスワード
securityPassword	任意	string	なし	セキュリティパスワード
allowPrint	任意	boolean	なし	印刷を許可する
allowEdit	任意	boolean	なし	編集を許可する
allowCopy	任意	boolean	なし	転載を許可する
allowAnnotate	任意	boolean	なし	注釈追加・変更を許可する
reportData	任意	object	なし	帳票データ

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
id	任意	string または storage	なし	このプロパティは帳票レイアウトの識別子毎に生成されます。識別子名がプロパティ名になります。帳票項目がイメージボックスの場合は storage、イメージボックス以外の場合は string になります。

返却値

```
outputFile <storage>
```

項目名	型	配列/リスト	説明
outputFile	storage	なし	出力ファイル

IOWebDOC (ddl)定義

表形式のPDF帳票を出力するユーザ定義タスクです。

入力値

```
outputFile <storage> *
docInfo <object>
  | title <string>
  | subTitle <string>
  | author <string>
  | application <string>
security <object>
  | openPassword <string>
  | securityPassword <string>
  | allowPrint <boolean>
  | allowEdit <boolean>
  | allowCopy <boolean>
  | allowAnnotate <boolean>
reportData <object>
  | global <object>
  | | id <string>
  | | ...
  | rows <object[]>
  | | col <string> *
  | | ...
```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
outputFile	必須	storage	なし	出力ファイル
docInfo	任意	object	なし	文書情報
title	任意	string	なし	タイトル
subTitle	任意	string	なし	サブタイトル
author	任意	string	なし	作成者
application	任意	string	なし	アプリケーション

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
security	任意	object	なし	セキュリティ
openPassword	任意	string	なし	文書を開くパスワード
securityPassword	任意	string	なし	セキュリティパスワード
allowPrint	任意	boolean	なし	印刷を許可する
allowEdit	任意	boolean	なし	編集を許可する
allowCopy	任意	boolean	なし	転載を許可する
allowAnnotate	任意	boolean	なし	注釈追加・変更を許可する
reportData	任意	object	なし	帳票データ
global	任意	object	なし	外部変数データ
id	任意	string	なし	このプロパティは帳票レイアウトの外部変数毎に生成されます。外部変数名がプロパティ名になります。
rows	必須	object	配列	行データを表します。必ず1行以上のデータを指定する必要があります。
col	必須	string	なし	このプロパティは表の列の数だけ生成されます。例えば、表が5列で構成されている場合、「col1」から「col5」まで生成されます。必ず全てのカラムをマッピングする必要があります。

返却値

```
outputFile <storage>
```

項目名	型	配列/リスト	説明
outputFile	storage	なし	出力ファイル

トラブルシューティング

IOWebDOC (ddl)定義 の実行時にエラーが発生する

入力値のマッピングが正しく設定されているかどうかを確認してください。詳細については [帳票データをマッピングする](#) を参照してください。

PDF帳票の出力時に画像を埋め込みたい

レイアウトファイルにイメージボックスの帳票項目を配置してください。単票形式と表形式で画像ファイルの指定の方法が異なります。

単票形式の場合

単票形式の場合、イメージボックスの帳票項目の型は storage です。ストレージ上の画像ファイルを指定してください。

表形式の場合

表形式の場合、イメージボックスの帳票項目の型は string です。ファイルシステム上の画像ファイルのパス文字列を指定

